

業務用販売回復続く

7 月動向 価格は上昇傾向を維持

農水省はこのほど、米穀販売業者(年間仕入 5 万トン以上規模)による 7 月の精米販売数量・価格動向を発表した。家庭用米が微増に転じるとともに、業務用米は引き続き増加・回復傾向にあることが分かった。

7 月の小売事業者(家庭用)向け販売数量は前年同月比で 1.6%の微増となった。元年同月との比較では 0.8%少なく、8 カ月ぶりにコロナ禍前の実績を下回っている。

中食・外食(業務用)向け販売数量は前年同月より 7.2%多く、3 年 11 月から 21 カ月連続で前年同月を上回っている。3~4 月は前年同月比で 2%前後の増加にとどまっていた。

新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行した 5 月以降、前年同月比で 4~7%程度の増加が続いている。元年同月との比較では 2.7%下回っており、需要の完全な回復には至っておらず、元年 3 月から 53 カ月連続で下回っている。

家庭用と業務用の合計の販売数量は前年同月比で 4.1%増えている。元年同月比では 1.7%下回っており、業務用の牽引によってもコロナ禍前の実績には追い付いていない。

家庭・業務用とも価格上昇

一方、7 月の精米販売価格は家庭用が前年同月比で 6.6%高となり、9 カ月連続で前年同月を上回っている。諸経費高騰の転嫁が一定程度は反映されているようだ。業務用は前年同月より 3.8%高く、4 カ月連続で前年同月を上回った。業務用でも、一部で 4 年産への切り替えが進んだものとみられる。